

平成29年度

# 事業報告書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

平成29年度 事業報告書 (P1)

社会福祉法人 偕 恵 園  
特別養護老人ホーム 椿 寿

## 平成 29 年度 特別養護老人ホーム椿寿 事業報告

介護職員の不足により平成 28 年度末をもって短期入所事業が廃止となり、平成 29 年度は本入居のみの施設運営として始まりました。短期入所に代わる地域貢献については模索を続けてきましたが、新たな事業に着手するには人材確保の問題があり、椿寿の職員体制内でできる地域貢献を考えていく中で、空床利用型短期入所という結論に至り、平成 29 年 11 月に新規事業として認可を受け開所となりました。

重要課題であった介護人材の確保については様々な手段を講じるも厳しい状況が続き、配置基準ぎりぎりの職員数を維持することが精一杯という結果でした。また、介護職員のみならず、厨房業務も人材不足の問題を抱えることとなり、入居者への食事提供に不備が生じないよう、給食業務の外部委託へ向け業者の選定を行いました。(平成 30 年 4 月より委託となる)

介護支援面については、例年同様に終末期ケアの充実を図り年間を通して 16 名の方の看取りを行うことができました。事故対策の面では、職員が少ない中、全職種による介護現場への応援体制を強化することで人員不足を補い、平成 28 年度より事故件数を減らすことができました。また日々の集団レクリエーションの導入により入居者生活の質の向上を図りました。

国が求める在宅支援への取り組みとしては、入居者 1 名が初めて特養から在宅へ復帰することができました。入居者の重度化が進む特養にあって、在宅復帰へ向けた支援ができたことは喜ばしいことでありました。

ハード面の維持管理として、内装については、食堂フローリングの張り替え工事、居室コンセントの増設、テレビ配線工事を行いました。設備については、規定の稼働時間を超えた空調室外機 2 台のリフレッシュ工事を実施し危機管理に努めました。空調設備全体については、年々、故障が増えていることから、居室及び厨房等の電気を使用している空調について、平成 30 年度に更新を計画していきます。

### 1. 平成 29 年度事業の重点項目について

#### (1) 人材確保、雇用努力

新規人材については、就職相談会への参加(計 3 回)、求人サイトの活用、フリーペーパーでの求人広告等といった雇用努力を行うも十分な確保には至らず、最終的な手段として人材紹介会社を活用することで(8 名雇用・紹介料 3,490 千円)、配置基準ぎりぎりの職員数を維持した。最大の課題であった常勤介護職員の雇用については、年間を通し入職 10 名に対し退職も 10 名という厳しい結果となった。

#### 【職員常勤換算数(平成 29 年度平均値)】

職種	管理者	医師	生活相談員	介護支援専門員	管理栄養士	看護師	機能訓練指導員	介護職員
基準数	1	—	1	1	1	3	1	34
換算数	1	0.1	1.1	1.8	2	3.8	1	35.5

#### (2) 職員の質の向上

平成 29 年度もキャリアパス制度を導入し、職員個々が自己目標や課題について取り組みを行った。6~7 月にかけて全職員と面談を行い、取り組みの進捗状況等を確認し、目標や課題に対してアドバイスをすることでスキルアップを図った。また、年度末の 3 月に再面談を実施し、年間の総合評価及び、平成 30 年度の目標に向けて話し合いを行った。

### (3) 終末期ケアの充実

ターミナルケア及び、グリーフケアの取り組みは例年同様に入居者・家族の希望に添ったケアを提供し、平成 29 年度は 16 名の看取りを行った。終末期ケアを実施する上で欠かせない医師との関わりについては、11 月に嘱託医の変更があった。椿寿の終末期ケアに対して十分な理解が得られていないという課題もあり、今後も密に連携を図っていく必要がある。

### (4) 施設設備の危機管理

施設内装については、経年劣化による食堂フローリングの張り替え工事、タコ足配線回避による居室コンセントの増設工事、居室でのテレビ視聴のニーズが多くあることからテレビ配線工事を実施した。

設備については、規定の稼働時間を超過した空調室外機 2 台のリフレッシュ工事を実施した。空調設備全体としては年々、故障が増えており、また平成 30 年 2 月にて全ての保守契約が終了となった為、今後は居室及び厨房等の電気で使用している空調設備の更新を計画していく。(居室部分は個別空調へ更新)

## 2. 管理面について

### (1) 総務課

- ① 就職相談会への参加や人材紹介会社の積極的な活用など人材確保に努めたが雇用の安定には厳しく、介護職員については入職 10 名に対し退職 10 名、看護師については入職 5 名に対し退職 3 名という結果となった。
- ② 施設設備については、空調室外機 2 台のリフレッシュ工事 (2,268 千円)、フローリング張替工事 (7,000 千円)、テレビ配線工事 (2,110 千円)、コンセント増設工事 (690 千円) を実施。備品の面では居室キャビネット 40 台 (1,250 千円)、車椅子 14 台 (760 千円) を購入し、ハード面の改善を図った。
- ③ 介護職員処遇改善交付金を一時金として支給し、金銭的待遇面の向上を図った。
- ④ 平成 28 年度に引き続き、職員の心と身体 の健康保持増進のため心理的な負担の程度を把握するストレスチェックを5月に実施した。結果、高ストレスと判断された者が9名、その内、1名が希望により医師の面談を受け不安の解消に至り、雇用の継続に繋がった。

### (2) 防災害対策

- ① 消防計画に基づき年 2 回の総合避難訓練実施。
- ② 消防設備法定点検年 2 回 (外部委託) と毎月の定期自主検査。
- ③ 消防査察対応。
- ④ 防災マニュアルの見直しと利用者個人台帳の作成。
- ⑤ 防災備蓄品の維持管理。
- ⑥ 消防署との意見交換、職員研修。

## 3. 支援面について

### (1) 介護支援課

#### ① 研修

研修内容については、人権擁護、事故対策、感染症、認知症、ターミナルケア等、幅広く行ってきたが、職員不足にて限られた人数しか研修に参加できない状況が続く結果となった。

研修発表については、介護職員、介護支援専門員が外部研修で得た内容を発表し、全体で知識の共有を図ることができた。また、1月に看護師1名が初めて講師を努めて研修を行った。今後も職員個々のキャリアアップとして、研修発表や講師といった機会を増やしていきたい。

【施設内研修】（研修数 15／参加延べ人数名 79）

	テーマ	講師
4月	人権擁護に関する研修	生活支援課主任
	身体拘束廃止に関する研修	生活支援課主任
	虐待防止に関する研修	生活支援課主任
5月	認知症研修	生活支援課課長
6月	食中毒の発生予防、蔓延の防止に関する研修	管理栄養士
7月	ターミナルケア及びグリーフケアに関する研修	医務室主任
	事故対策・事故予防研修	施設長
8月	外部研修発表－低血糖とその対応について－	介護支援専門員
9月	感染症の発生予防、蔓延の防止に関する研修	医務室主任
	利用者のプライバシー保護に関する研修	施設長
	法令遵守及び職員倫理に関する研修	施設長
1月	感染症の発生予防、蔓延の防止に関する研修－レジオネラ菌－	介護支援課課長
	吸引・経管栄養による急変、事故発生時の対応	看護師
2月	事故発生等、緊急時の対応に関する研修	生活支援課課長
3月	外部研修発表－拘縮予防に有効なポジショニング・シーティング－	介護職員

【施設外研修】（研修数 13／参加延べ人数 13名）

	テーマ	職種	人数
5月	災害時特別避難場所連絡会	介護課長	1
6月	平成 29 年度算定基礎届事務説明会	総務	1
	平成 29 年度安全運転管理者法定講習	総務	1
7月	平成 29 年度指定施設不在者投票事務説明会	介護支援専門員	1
	平成 29 年度年金共済事業事務説明会	総務	1
8月	普通救命講習会	介護	1
9月	口から食べることをみんなで支援しよう！	介護	1
	医療的ケア講習会	看護	1
10月	指定病院等における不在者投票事務説明会	介護支援専門員	1
11月	平成 29 年度年末調整等説明会	総務	1
	上白根病院・介護施設連携会	介護支援専門員	1
2月	拘縮予防に有効なポジショニング・シーティング	介護	1
3月	認知症ケアの考え方（BPSD 編）	介護	1

② 資格取得

平成 29 年度は新たに 2 名が介護福祉士の資格を取得した。資格取得支援として、実務者研修のスクリーニングに合わせた勤務調整及び、有給休暇の付与を行った。

③ 事故・ヒヤリハット報告

年間を通して事故件数は 39 件あり、平成 28 年度と比較し 15 件減少した。介護職員が少ない中、全職種による介護現場への応援体制を強化することで人員不足を補ったことが事故件数を減らせた要因と考える。

ヒヤリハット件数は 61 件であり、平成 28 年度 86 件よりも減少する結果であった。ヒヤリハット=介護上の気付きであることから、日々の入居者の変化を見過さず、ヒヤリハットとして全体で共有していくという意識を職員個々に浸透させることができれば、更に事故件数は減らせたのではないかと考える。

【事故報告件数】

内容	転倒	転落	薬	内出血	腫脹	異食	異物混入	義歯破損	表皮剥離	その他	合計
人数	13	11	3	2	1	2	1	1	2	3	39

【横浜市への事故報告件数】

内容	骨折(転倒)	転倒	転落	薬	腫脹	異食	合計
人数	2	3	1	1	1	1	9

【ヒヤリハット報告】

内容	転倒	転落	内出血	所在不明	異食	薬	表皮剥離	その他	合計
人数	12	7	18	5	2	1	3	13	61

④ 身体拘束廃止・虐待防止

身体拘束は対象者が 3 名おり、経鼻経管栄養の方が 2 名、胃瘻の方が 1 名で 3 名ともチューブ抜去の可能性が高く、家族との話し合いの結果、家族の希望により片手のみミトンを着用した。拘束解除の手段として、多職種の連携による見守り時間の延長、夜間入眠時のミトン解放といった取り組みを行い、徐々にではあるが解放する時間を設けていった。その結果、胃瘻の方 1 名が 2 月をもって拘束を終了することができた。

虐待防止については、新人を含めた施設内研修を実施し、虐待の予防・早期発見の重要性、また職員同士がケアや言葉遣いで疑問に感じたことを互いに指摘し合える職場風土を作っていくことが大切であるといった指導を行った。また、自らの支援を振り返る自己点検シートでの検証を行い、施設全体で虐待への予防及び対策に努めた。

⑤ 感染症対策

例年同様に 11 月～3 月を感染症対策強化期間と位置づけ、フロア内消毒、フロア内加湿、入館時のうがい手洗い等を徹底した。その結果、職員個々のインフルエンザ罹患はあったものの、年間を通して施設内での感染症発生はゼロで終えることができた。

⑥ 各種会議・委員会

- ・ 日常運営会議 12 回
- ・ 衛生管理委員会 12 回
- ・ 感染症及び食中毒予防対策委員会 12 回
- ・ 事故対策・事故予防委員会（定例）12 回・（臨時）1 回
- ・ 拘束対策委員会（定例）12 回・（臨時）1 回
- ・ 褥瘡対策委員会 12 回
- ・ NST 会議 6 回

⑦ 行事・レクリエーション

職員不足により行事については縮小傾向となってしまったが、高齢者施設として欠かせない敬老祝賀会では 100 歳を超える方のお祝いを盛大に行うと共に、ボランティアによる演奏や職員の出し物にて入居者、家族の皆様の笑顔が多くみられた。

日々の活動については集団レクリエーションを導入し、入居者生活の充実を図ることができた。

⑧ 家族会（つばきサークル）

施設外周りの環境整備、ハギレ作り、集団レクリエーションの補助等、様々な活動を通して施設に協力して頂いた。平成 29 年度はつばきサークルの代表が変更となったこともあり、双方で話し合いを重ねながら連携を深めていった。

(2) 生活支援課

① 稼働率(%)

本入居は平成 28 年度に比べ 1.8%減少している。事前面接者数は平成 28 年度よりも増えているものの、入居に至らないケースの増加や、申し込み者数及び施設見学者数が減少している事も一因にあると考えられる。

短期入所は平成 28 年 3 月末で一度廃止したが、11 月には空床利用型として再度開所した。空床利用型という特性上、稼働率の安定という概念はないが、特養の空床が出来た際に、医療的重症者でも受け入れることで、特養の空床回避につながっている。

(%)

特養	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H28年度	95.8	96.4	99.2	98.3	96.7	95.5	97.6	97.3	94.6	96.0	96.3	94.3	96.5
H29年度	94.7	92.8	94.3	95.3	94.7	96.7	92.3	93.7	96.6	97.7	95.6	91.7	94.7
短期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H29年度								0	0.23	0.03	1.0	1.39	0.53

② 人権擁護・虐待防止・身体拘束廃止への取り組み

入職時研修及び施設内研修にて、人権擁護・虐待防止・身体拘束廃止に関する勉強会を行った。

③ 苦情ゼロ対策

平成 29 年度は 2 件苦情を頂き、2 件目とも身だしなみについてであった。整容を心掛けることは介護の基本的なことであり、入居者・家族にはご不快な思いをさせてしまったが、このご意見を施設全体のことで捉え、他フロアでも整容について改めて意識することにより、資質向上の機会として捉え改善につながった。

④ 短期入所事業

前述にもあるが、11 月より空床利用型短期入所事業を再スタートし、空床が出た際には医療的重症者でも連携を図りながらサービス支援に繋げていくことが出来ている。稼働率については、空床数での受け入れとなる為、毎月変動しているが、1 床でも特養の空床で在宅介護者を受け入れることで、地域貢献に繋がる様に邁進していきたい。

短期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実利用人数								0	1	1	1	2
一人当たりの平均利用日数								0	7	1	28	21.5

⑤ 地域参加・地域貢献事業

近隣の地域ケアプラザと協働し、半年かけて企画し地域住民を対象とした「ひかり福祉フェスタ」を平成 29 年度も開催することが出来た。

⑥ ボランティア

これまでの個人・グループ活動に加え、平成 29 年度より定期的に作業レクリエーション活動にもボランティア参加を促し、より活動的となった為、平成 30 年度も引き続き活動内容の多様化に努めたい。

⑦ 実習生・体験学習の受け入れ状況

平成 28 年度同様、実習生・体験学習の受け入れを積極的に行ったが、受け入れ依頼件数自体が減少傾向にある。

(3) 医務室

① 入院者数

入院	人数	平均入院日数	平均入院延べ日数
H28 年度	3.2 人/月	20 日/月	44 日/月
H29 年度	4.08 人/月	13.6 日/月	59.4 日/月

② 入院者の主な病名：PEG 交換・造設（11 名）、尿路感染症（3 名）、肺炎（9 名）  
脳血管疾患（5 名）、その他（14 名）

③ 年間救急車要請：平成 28 年度：5 回 → 平成 29 年度：7 回

④ 年間入退居者数：入居者 30 名、退居者 32 名

退居者 32 名のうち施設にて看取り 16 名（男性：7 名、女性：9 名）  
平均年齢：84 歳

(4) リハビリテーション

① 個別機能訓練実施数：年間総数 2148 名、月平均 179 名

② 個別身体機能評価実施数：年間総数 412 名、月平均 34 名

③ 集団リハビリテーション：年間総数 919 名、月平均 77 名、実施回数 79 回

④ 集団レクリエーション：年間総数 1321 名、月平均 110 名、実施回数 67 回

⑤ 実施訓練内容：関節可動域訓練・筋力増強訓練・自動訓練・自動介助訓練  
ベッド上基本動作訓練・起居動作訓練・座位訓練・立位訓練・移乗動作訓練  
歩行訓練・物理療法・良肢位ポジショニング確認

(5) 栄養課

① 栄養状況の指標：低アルブミン血症 12.2%

BMI25 以上の肥満者 4.4%、BMI18.5 未満のやせ 38.8%

② 療養食提供数：1 日平均 11 名（うち一名心臓病食提供）

③ 減塩食数（非加算）：1 日平均 15 名

④ 個別メニュー対応：禁食による対応者 8 名、摂取量増加目的者 3 名

⑤ 定期的な検査数値を基本とし、アセスメントからは他職種の支援内容、更には個人の嗜好調査を元に栄養マネジメントを実施。特に、嘱託医の意見は即時の対応に繋がった。

⑥ 経口摂取維持：医務へ水飲みテストを依頼。毎月、嘱託医・歯科医師よりのアドバイスを計画書、実施事項へ反映した。

⑦ 厨房職員への食品衛生マニュアルの研修を実施。

⑧ ソフト食導入については、問題なく提供でき、作業面の効率化に繋がった。